

5月27日に6年生が実施した全国学力状況調査の分析結果について報告します。

「国語の調査結果にみられる特徴と現状分析」

国語の正答率に関しては、全国平均を2.7ポイント（県平均は3ポイント）下回っている。観点ごとに分析すると、「話すこと・聞くこと」に関する項目は全国平均より、3ポイント上回り、「書くこと」に関する項目は、3ポイント下回っている。「読むこと」については全国平均とほぼ同じ数値となった。また、「言葉の特徴や使い方に関する事項（言葉の語彙力等）」は全国平均を6ポイント下回っている。

今年度本校は、国語の研究3年目となり、研究主題「実生活で生きてはたらく読む力の育成～自分の言葉で思いや考えを表現することを通して～」に迫る取り組みの成果が少しずつ表れている。しかしながら、「語彙力を高め、言葉の特徴や使い方に関する知識を高めていく指導の充実」が重要と考えられる。

「算数の調査結果にみられる特徴と現状分析」

算数の正答率に関しては、全国平均を3.2ポイント（県平均は3ポイント）下回っている。観点ごとに分析するとおおむね全国平均と同程度の数値となっているが、「図形」に関する項目と「変化と関係（単位などの関係）」の項目が全国平均より5.9ポイント下回っている。全体としては基本的な計算などの力は身につけていて、短答式や選択式の問題に比べて記述式問題の正答率が低い数値となっている。

以上の分析から、

「図形を構成する要素などに着目し、面積の求め方などについて筋道を立てて説明できるようにする指導の充実」や「求積のために必要な情報を図形から選び出す活動などを取り入れる」ことや、「数量の関係を捉え、正しく立式したり、計算結果を基に問題場面を振り返ったりすることができるようにする指導の充実」が重要と考えられる。

「児童質問紙の回答結果にみられる特徴と現状分析」

①学習意欲・学習方法・学習環境についての考察

- ・国語の関心・意欲に関する回答では、全国平均に比べて7ポイント（%）ほど低い数値となっている。授業理解を含め、苦手としている児童が多い傾向にある。
- ・算数の関心・意欲に関しては、比較的高い数値ではあるが、学習内容の理解度が15ポイント（%）低い傾向にある。
- ・ICT機器の活用に関しては、小学校で全国平均とほぼ同等の結果となっている。また、

学習へのICT機器の必要性を感じている児童生徒の割合も他の質問より高い割合を示している。電子黒板の活用のほか、1人1台端末の整備にともない、さらなる効果に向けて実践を続けていく必要がある。

②生活の諸側面、学校生活についての考察

- ・「学校に行くのは楽しいですか」という問いに対しては8割ほどの児童が楽しいと感じている。
- ・「朝食を毎日食べている」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」「人の役に立つ人間になりたいと思う」「友達と協力するのは楽しい」と答えた児童生徒の割合が高かった。
- ・毎日の家庭学習の時間について（塾や習い事も含む）は6割の児童が1時間以上2時間未満と回答している。
- ・「自分に良いところがありますか？」という問いに対して8割の児童が「ある」と回答し、肯定的な回答している。（全国平均と同程度の数値）
- ・「将来の夢や目標はありますか？」という問いに対して8割以上の児童が「ある」と回答していて、全国平均より高い数値にある。
- ・「自分で決めたことをやり遂げる」、「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦する」という問いに対しては「している」と回答した児童は全国平均に比べて10ポイント（%）程度低い数値にある。
- ・「携帯電話・スマートフォン・パソコンの使い方について家の人との約束を守っているか」という問いに対して7割程度の児童は守れている傾向にある。

これらのことから、児童一人一人の長所を伸ばし、課題については今後も保護者との連携を密にしながら、協力して推進していくことが重要である。